



式典の様子

松本市と旧本郷村の合併50周年を記念し、5月1日(水)に浅間温泉文化センターにて記念式典が開催されました。会場には、地区関係者や来賓、旧本郷村の関係者など約120人が集まり、この節目の年を祝福しました。

式典では、臥雲義尚松本市長を始めとする来賓の挨拶がなされたほか、50年間の歩みをまとめたスライドショーや旧本郷村出身の映画監督・山崎貴氏のビデオメッセージ、マリンバ・ピアノや尺八・箏

## 祝！ 本郷地区松本市 合併50周年記念式典開催



令和6年7月1日現在

|     |         |
|-----|---------|
| 人口  | 14,407人 |
| 男性  | 6,985人  |
| 女性  | 7,422人  |
| 世帯数 | 7,016戸  |



万歳三唱で50周年を祝う

式典は終わりましたが、7月には50年間の主な出来事をまとめた記念誌が発行されるなど、合併50周年と合わせて各種事業が行われています。公民館においても文化祭や講座などで地区の歩みを振り返るような事業を予定していますので、今後の50周年関連事業にもご注目ください。

の演奏など多彩なプログラムが行われました。式典の最後には、万歳三唱が行われ、本郷地区の今後の発展を祈念しました。



温泉ひろばで開催されている新そば祭り

温泉ひろばで開かれた「新そば祭り」は、多くの人々が参加し、新そばを味わう機会となりました。また、地区の歴史や文化に関する展示も行われ、多くの人々が参加しました。

かつて「松本の奥座敷」と呼ばれていた浅間温泉。その歴史は古く飛鳥時代とも言われています。明治時代には多くの観光客で賑わい、与謝野晶子、竹久夢二など多くの文人が訪れた事でも知られています。「高い山 つつめる雲を前にして 紅き灯にそむ 浅間の湯かな」という歌は、上高地の帰りに浅間温泉の旅館に宿泊した時に、与謝野晶子が詠んだ歌だと言われています。

## 合併50年 地区の記憶



浅間温泉入口のゲート

ちょっと浅間温泉  
行ってみようかな

50年前、本郷地区は松本市と合併して東筑摩郡本郷村浅間温泉から松本市浅間温泉に変わりました。その時に本郷小学校から一部の生徒が清水小学校、旭町小学校などに転校していきました。そのうちの一人が、皆さんもご存知の先日アカデミー賞を受賞した山崎貴監督です。

さて、1990年代には100万人を超えていた観光客もどんどん減少していき、現代ではその半数以下とも言われています。長野自動車道が開通し、今まで一泊して観光していた人達が日帰りで松本、安曇野などに来ることができるようになったのも、一つの要因だと思われます。

課題を抱える浅間温泉ですが、1970年代から頑張ってきている飲食店、土産物店も多くあります。最近では若者が好みそうなカフェなども、新たに増えてきています。さらにはホットプラザ浅間前の温泉広場を中心としたイベントも多くあり、浅間温泉を訪れてくれる人も増えてきていると思います。

松明祭りの時の賑わいだけに頼らずに、「ちょっと浅間温泉 行ってみようかな」と多くのの人に思ってもらえるようになることを、期待します。

浅間温泉第5町会 (T)

命の輝きがホテルの里に息づいています。みんなでホテルの存在を知り、大切な環境を守っていききたいものです。

## ホテルの舞う里 浅間温泉ホテル祭り開催

6月28日(金)、朝から雨が降っていましたが、開始間近の19時過ぎ頃には雨がほとんどやみ、無事にホテル祭りが始まりました。本郷公民館親子講座「ホテルを親子で見よう」にも、20人を超える方々が参加し、薄明りの中でふわりと舞い上がるホテルに魅了されていました。土日は天候に恵まれて、大勢の皆さんにご覧いただきました。



昔ながらの店、新しい店が並ぶ浅間温泉





## 橋の周りの交通事情に思うこと

今年度の始めに水汲橋の信号が歩車分離型に変わりました。毎朝・毎晩犬のお散歩に出る私としては、これにより安全に歩けると喜んでいました。しかし実際は、今までの感覚のまま信号を確認せず信号無視をする車がかなりいて危なく感じます。

この辺は他にも原橋や浅間橋などありますが、危険なのは特にスポーツ橋です。ここでは、横断歩道に歩行者がいても止まる気のない車、我先に右左折しようと直進の車しか見ずに曲がってくる車、ひどいときには横断歩道を渡っている目の前でアクセルを踏んで進む車までいます。警察が取り締まるのは夜間なので、歩行者の多いタイミングは実は無法地帯化しています。長野県は横断歩道一時停止ランキング1位とは言えこれが現状です。

●目立つ服などを身に着ける  
●すぐに道路に飛び出さない  
●運転手を信用しすぎないなど、自分で自分の身を守る手段がとても大切だと思います。そして運転する機会のある人には再度道路交通法を見直していただくと、ドライバー

としての自分を守ることにつながるのではないのでしょうか。

(原町会 K)

## 横田神社春の例大祭開催

5月2日(木)、3日(祝)に横田神社春の例大祭が開催されました。コロナ感染拡大に伴い中止されていたため5年ぶりの開催になります。昔から横田第一町会は氏子総代を選出し、神社の掃除や行事の運営などに関わってきました。2日は早朝6時から各クラスでしめ縄張りを行い、18時から二胡演奏やけん玉大会、ビンゴゲームなどの宵祭りがありました。3日は8時から神輿の出陣式が行われ、子供神輿約30名、信大思誠寮生を中心とした大人神輿約20名が元気な掛け声と共に町内を練り歩きました。春の心地よい晴天のなか心も晴れやかになりました。

(横田第一町会 S)



子供神輿の様子

縁側のある暮らし  
よってきましょ

ニューヨークの青年が、とある公園で、日本の文化を発信しているとのこと。自前でお茶を入れ、公園に来る人に振る舞う。そこで人との交流が生まれるのだといい、なんだかホッコリとします。日本も昔は近所の人と井戸端会議、縁側でお茶を飲み、いろんな話に花を咲かせたものです。ところで「お茶好きな人は老けない」そう。昭和30年代、小学4年生の私は、祖母のお友達が来ると、よくお茶を入れたものです。そんな事があって、今でもお茶の時間は楽しみです。今は隣に誰が住んでいるのか分からない人も増えているとか。また、お金でなんでも買える一方、お金や物に振り回されてしまいがちです。こうした時代に、心は振り回されないよう、今一度何が大切か地に足を付けて考え、心に余裕を持つことが大事だと感じます。人と関わり、丁寧に暮らし、心にゆとりを持ち、楽しく、他人の事を思いやる。そんなゆとりのある社会になることを願っています。

「新緑に 老けない心 お茶をして」

(浅間温泉第3町会 K)

激走! ツール・ド・美ヶ原  
高原自転車レース2024

濃霧の中、力を尽くす選手たち

浅間温泉街から美ヶ原原まで自転車に登るヒルクライムレース「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース2024」が6月30日(日)に開催され、エントリーした約1400人の選手たちが挑みました。今年は、頂上付近の天候に恵まれず、雨や風に悩まされた選手たち。それでも、精一杯坂を登っていく姿に、沿道からは「がんばれー!」と声援が送られました。

実行委員や住民、ボランティア、選手たちの熱意により25回を重ねてきた本大会。下山する選手の「来年も来るよー」という言葉に本郷を代表するスポーツイベントの一つとなったことを実感しました。

フリーコラム  
古今東西  
女鳥羽川清掃ボランティア②

小穴さん(写真左下)と第一高校生徒

浅間温泉第8町会の小穴厚さん(70)は、女鳥羽川緑地公園の草刈と清掃奉仕活動をしています。水汲橋から浅間橋とスポーツ橋の下あたりまでの緑地を一年のうち7か月、月4回実施しています。河川に流れる大きなゴミと緑地の大小のゴミを一つ残らず拾っています。レジ袋に入った家庭ゴミも時としてあり、この時は心が痛むそうです。緑地には幼児の滑り台とブランコがあり、犬と散歩する人がいたりウォーキングでひと休みしたり、さまざまです。ここで元気に遊ぶ家族を見ると心が和むそうです。5月には、松本第一高校のインターアクト部40余名の生徒と一緒にゴミ拾いに参加してくれました。

(浅間温泉第6町会 S)